

# 大明小学校 校長室から

令和3年1月27日

No. 17

文責 校長 穴山 直樹

## 春の訪れを感じましょう—節分について—

「鬼は外，福は内」元気な豆まきの声をする2月の節分。節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春，立夏，立秋，立冬の前の日のことをそう呼んだそうです。いまでは、豆まきの風習が残っている2月の立春の前の日だけを言うようになりました。立春とは、春が立つと書きます。はじめて春の気配が現れるという意味です。旧暦では、このころが、1年の始まりでもありました。そうはいつてもまだまだ、寒い日が続く時期ですが、日差しの温かさに春の訪れを感じ始める時期でもあります。節分には、昔の家庭では、柵（ひいらぎ）の枝に焼いたいわしの頭をさし、門の戸（玄関口）にはりつけました。

季節の変わり目には邪気（悪い気）が入りやすいとされていたので、それを追い払うためにこのような飾りをつけたり、炒った大豆をまいたりしました。今でも豆まきの風習は残っていて皆さんのご家庭でも行うのではないのでしょうか。そして、豆まきの後、自分の年齢より一つ多く的大豆を食べます。我が家でも節分には毎年玄関口や勝手口にいわしの頭を置きます。その時いわしの頭にめがけてつばを吐き（ちょっと汚いような気もしますが、これが大切だと母親から教わりました）、そして「からすのくちばし、ツウツウツウ」と大きな声でおまじないを何回か唱えて玄関に置いています。においのきついいわしの頭を置くことで家の中に悪いものが入り込まないようにしているとのこと。豆まきも隣近所に聞こえるような大きな声で「鬼は外，福は内」を行います。私は節分のこの習わしが楽しみで、春の始まりを感じてうれしくなります。

春の訪れをうれしく思う気持ちは、世界共通なものでもあります。スイスのバーゼルという都市では「ファスナヒト」という有名なお祭りがあります。人々が仮装してパレードを行い、厳しい冬を追い出し、春を迎える祭りです。長い冬の後に来る春の穏やかな季節は、寒い地方の人々にとっては大きな喜びでしょう。春はもうすぐそこまで来ています。

## 感染症対策の再確認をお願いいたします

東京や大阪などの大都市圏に非常事態宣言が発令されて3週間ほどが経過しました。ある程度の感染者の数的な減少のきざしが見られるとはいうものの全国的に見ても危機的状況から脱却できたとはいえない状況です。学校では引き続きの感染症対策の徹底を心掛けていきます。基本的な感染症予防策としては「手洗い・うがい・換気・マスクの着用」「3密回避」「不要不急の外出の制限」「外食や会食での配慮」等になると思います。自分でできる基本的な感染症対策を徹底していくことが本当に大切だと思います。「感染しない，感染させない」を合言葉に安全で安心な学校生活や家庭生活を送るためにもご協力をお願いいたします。

## 不要になった硬式テニスボール

この通信や学校のホームページでもお知らせしたところですが、不要になったテニスボールを寄付して下さった方がいらっしゃいました。本当にご協力ありがとうございました。引き続きのお願いとなりますが、不要になったテニスボールがありましたら、学校への連絡をよろしくをお願いいたします。本校にとっていくつあっても必要で、少しでもありがたい大切なものです。

